

「働くかないアリに意義がある」 教科書、辞書などから解決できそうな課題
二年四組

目標 主張と理由、根拠のつながりを見つけられるようになる。

注意 突っ込まれない答え方がレベルの高い考え方！

〔2〕 「ハウスではいつも狭い範囲にたくさんの花があるため、ミツバチたちは広い野外であちこちに散らばる花から散発的に蜜を集めるとより多くの時間働かなければならず、厳しい労働環境に置かれているようです。」何で狭い範囲で蜜を集める方が楽そうなのに、広い野外で蜜を集めるミツバチより疲れるのか？

ミツバチが蜜をとる仕事の中で最も疲れそうな仕事内容は？

〔2〕 「労働頻度と寿命の間には関係があるかもしれません。」

「労働頻度が」（ ）と、寿命が（ ）。↑の内容を表している部分を〔2〕から抜き出す。

〔5〕 「反応閾値の差が、コロニーの繁栄を支えている」「
反応閾値が高い」（ ）の刺激量で仕事をする
反応閾値が低い」（ ）の刺激量で仕事をする

反応閾値の差が無い」とどうして「コロニーは繁栄しない（＝滅びる）のか？

〔9〕 働かない働きアリは、怠けてコロニーの効率を下げる存在ではなく、それがいないとコロニーが存続できない、きわめて重要な存在だと言えるのです。
「働きアリはどうして効率を下げないのか？」
「働きアリはどうして効率を下げないのか？」

〔11〕 働かないものにも、存在意義はちゃんとあるのです。
「いついう存在意義があるのか？」

〔12〕 見てきたように、ムシの社会が指令系統なしにうまくいくためには、メンバーの間にさまざまな個性がなければなりません。

「この場合の個性とはどういったものか？」
個性がないとどうなるのか？

〔14〕 みんな働く意欲は持つており、状況が整えば立派に働くことができるのか？
「どのような状況になれば働くことができるのか？」

〔15〕 昨今の経済におけるグローバリズムの進行がその傾向に拍車をかけています。
「グローバリズムが進行すると経済は何を目指すの？」
「その傾向」は何？

〔16〕 狂牛病のヒンサーは何を言いたいために出したの？

〔17〕